

# 青森県経済統計報告

平成 28 年 2 月 4 日

企画政策部統計分析課

## 1 青森県の推計人口（平成 28 年 1 月 1 日現在）…………… 1

県人口	1,304,486 人（対前月 910 人減少）
自然動態	782 人減少（出生者数 724 人、死亡者数 1,506 人）
社会動態	128 人減少（転入者数 1,052 人、転出者数 1,180 人）

## 2 本県の経済動向（平成 27 年 11 月・12 月の経済指標を中心として）

### （1）経済概況

本県経済は、緩やかに持ち直している。  
青森県景気ウォッチャー調査結果によると、北海道新幹線開業効果や消費税増税前の駆け込み需要の期待等から、先行き判断DIは前期比2.0ポイント増加の51.5となった。

### （2）主要経済指標の動向

- (2-1) 生産動向 …… 2
  - ・平成 27 年 11 月の**青森県鉱工業生産指数**（平成 22 年=100）は、季節調整指数が 105.7 で、前月比 2.3%の低下となり、2 カ月ぶりに前月を下回った。また、原指数は 109.0 で、前年同月比 4.7%の上昇となり、3 カ月ぶりに前年同月を上回った。
  - ・平成 27 年 12 月の**大口電力使用量**は 2 億 3,455 万 kWh で、前年同月比 3.9%増となり、8 カ月連続で前年同月を上回った。
- (2-2) 雇用労働 …… 3
  - ・平成 27 年 11 月の**定期給与**は 217,287 円で前年同月比 1.4%減となった。**総実労働時間**は 156.0 時間で前年同月比 0.3%減、**所定外労働時間**は 12.2 時間で前年同月比 19.4%増となった。
  - ・平成 27 年 12 月の**有効求人倍率**（季節調整値）は 0.97 倍で、前月を 0.01 ポイント下回った。また、**新規求人倍率**（季節調整値）は 1.39 倍で、前月を 0.08 ポイント上回った。
  - ・**雇用保険受給者実人員**は 6,654 人で、前年同月比 2.2%の低下となった。
- (2-3) 物 価 …… 5

平成 27 年 12 月の**青森市消費者物価指数**（平成 22 年=100）は、総合指数が 102.9 となり、前月比 0.2%の下落、前年同月比 0.3%の下落となった。また、食料（酒類を除く）及びエネルギーを除く総合指数は 101.4 となり、前月比 0.1%の下落、前年同月と比べ 1.4%の上昇となった。
- (2-4) 個人消費 …… 6
  - ・平成 27 年 12 月の**大型小売店販売額**は、全店舗ベースが 180 億円で前年同月比 3.3%増となり、2 カ月ぶりに前年同月を上回った。また、既存店ベースでは前年同月比 1.6%増となり、2 カ月ぶりに前年同月を上回った。
  - ・平成 27 年 12 月の軽自動車を含めた**乗用車新車登録・届出台数**は 2,746 台で、前年同月比 31.0%減となり、4 カ月連続で前年同月を下回った。
  - ・平成 27 年 12 月の**観光入込客数**は、主な観光施設が 529 千人で前年同月比 2.8%増となり、3 カ月ぶりに前年同月を上回った。また、主な宿泊施設は 108 千人で前年同月比 6.2%増となり、7 カ月連続で前年同月を上回った。
- (2-5) 建 設 …… 7
  - ・平成 27 年 12 月の**新設住宅着工戸数**は 541 戸で、前年同月比 4.8%増となり、3 カ月ぶりに前年同月を上回った。
  - ・平成 27 年 12 月の**公共工事請負額**は 58 億 9,200 万円で前年同月比 5.2%増となった。また、年度累計請負金額は、9 カ月連続で前年同月を下回った。
- (2-6) 企業倒産 …… 8

平成 27 年 12 月の**企業倒産**は、件数は 2 件で前年同月比 60.0%減となった。負債総額は 1 億 3,200 万円で前年同月比 46.1%減となった。

### （3）景気動向指数CI（平成 27 年 11 月分）…………… 9

先行指数	108.2（前月を 0.9 ポイント下回り、2 カ月連続で下降した）
一致指数	127.2（前月を 3.8 ポイント下回り、2 カ月連続で下降した）
遅行指数	125.2（前月を 0.3 ポイント下回り、4 カ月ぶりに下降した）

### （4）青森県景気ウォッチャー調査（平成 28 年 1 月期）…………… 10

3 カ月前と比べた景気の現状判断DI	…48.5（前期比 0.8 ポイント減、2 期連続で 50 を下回る）
3 カ月後の景気の先行き判断DI	…51.5（前期比 2.0 ポイント増、2 期ぶりに 50 を上回る）

# 1 青森県の推計人口（平成28年1月1日現在）

## 【概況】

平成28年1月1日現在の本県推計人口は、1,304,486人で、前月に比べ910人の減少となった。

### ○自然動態

出生者数が724人、死亡者数が1,506人で、782人の減少となった。

### ○社会動態

転入者数が1,052人、転出者数が1,180人で、128人の減少となった。

総人口の推移

(単位：人)

	総数	性別		対前月増減率	増減数	自然増減数	出生者数	死亡者数	社会増減数	県外からの転入者数	県外への転出者数
		男	女								
昭45.10.1	1,427,520	685,477	742,043	-	10,929	-	-	-	-	-	-
50.10.1	1,468,646	707,232	761,414	-	41,126	-	-	-	-	-	-
55.10.1	1,523,907	735,444	788,463	-	55,261	-	-	-	-	-	-
60.10.1	1,524,448	731,439	793,009	-	541	-	-	-	-	-	-
平2.10.1	1,482,873	704,758	778,115	-	-41,575	-	-	-	-	-	-
7.10.1	1,481,663	704,189	777,474	-	-1,210	-	-	-	-	-	-
12.10.1	1,475,728	702,573	773,155	-	-5,935	-	-	-	-	-	-
17.10.1	1,436,657	679,077	757,580	-	-39,071	-	-	-	-	-	-
22.10.1	1,373,339	646,141	727,198	-	-63,318	-	-	-	-	-	-
27.1.1	1,319,297	619,304	699,993	-0.078%	-1,032	-845	680	1,525	-187	965	1,152
27.2.1	1,318,059	618,669	699,390	-0.094%	-1,238	-1,072	705	1,777	-166	1,064	1,230
27.3.1	1,316,886	618,120	698,766	-0.089%	-1,173	-754	642	1,396	-419	965	1,384
27.4.1	1,310,809	614,893	695,916	-0.461%	-6,077	-724	737	1,461	-5,353	3,806	9,159
27.5.1	1,310,743	615,057	695,686	-0.005%	-66	-593	735	1,328	527	3,458	2,931
27.6.1	1,309,993	614,668	695,325	-0.057%	-750	-661	707	1,368	-89	1,222	1,311
27.7.1	1,309,272	614,260	695,012	-0.055%	-721	-607	750	1,357	-114	1,257	1,371
27.8.1	1,308,552	614,004	694,548	-0.055%	-720	-620	724	1,344	-100	1,695	1,795
27.9.1	1,307,723	613,658	694,065	-0.063%	-829	-669	713	1,382	-160	1,670	1,830
27.10.1	1,307,030	613,389	693,641	-0.053%	-693	-592	736	1,328	-101	1,521	1,622
27.11.1	1,306,228	612,991	693,237	-0.061%	-802	-774	707	1,481	-28	1,447	1,475
27.12.1	1,305,396	612,621	692,775	-0.064%	-832	-758	745	1,503	-74	1,057	1,131
28.1.1	1,304,486	612,201	692,285	-0.070%	-910	-782	724	1,506	-128	1,052	1,180

12月中の人口動態の推移

(単位：人)

年月		平17.12	18.12	19.12	20.12	21.12	22.12	23.12	24.12	25.12	26.12	27.12
自然動態	出生者数	790	786	769	813	781	742	732	742	738	680	724
	死亡者数	1,208	1,289	1,303	1,349	1,318	1,317	1,458	1,549	1,494	1,525	1,506
	自然増減数	-418	-503	-534	-536	-537	-575	-726	-807	-756	-845	-782
社会動態	県外からの転入者数	1,184	1,212	1,162	1,265	1,163	1,151	1,035	959	919	965	1,052
	県外への転出者数	1,484	1,349	1,412	1,423	1,192	1,163	1,091	1,118	1,237	1,152	1,180
	社会増減数	-300	-137	-250	-158	-29	-12	-56	-159	-318	-187	-128
増減数計		-718	-640	-784	-694	-566	-587	-782	-966	-1,074	-1,032	-910

※1 昭和45、50、55、60、平成2、7、12、17、22年は国勢調査人口（確定値）。

※2 平成22年11月以降の人口は平成22年国勢調査人口（確定値）を基礎に推計している。

※3 増減数は、昭和45、50、55、60、平成2、7、12、17、22年が前回国勢調査、その他が前月推計人口に対するものである。

※4 算出方法

県の推計人口＝前月の人口＋自然増減数（出生者数－死亡者数）＋社会増減数（県外からの転入者数－県外への転出者数）

## 2 本県の経済動向

### (2) 主要経済指標の動向

#### (2-1) 生産動向

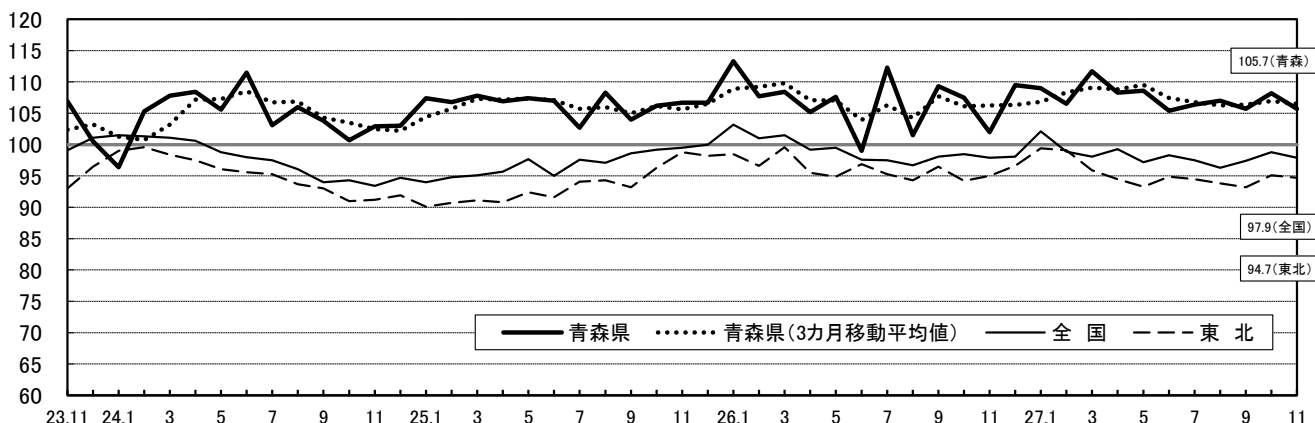
##### (2-1-1) 製造業の生産

平成27年11月の青森県鉱工業生産指数(平成22年=100)は、季節調整済指数が105.7で、前月比2.3%の低下となり、2カ月ぶりに前月を下回った。また、原指数は109.0で、前年同月比4.7%の上昇となり、3カ月ぶりに前年同月を上回った。

季節調整済指数で前月からの動きをみると、金属製品工業、輸送機械工業、非鉄金属工業などが上昇に寄与した一方、食料品工業、電気機械工業、業務用機械工業などが低下し、鉱工業全体では2.3%の低下となった。

青森県・全国・東北の鉱工業生産指数推移(季節調整済指数)

(平成22年=100)

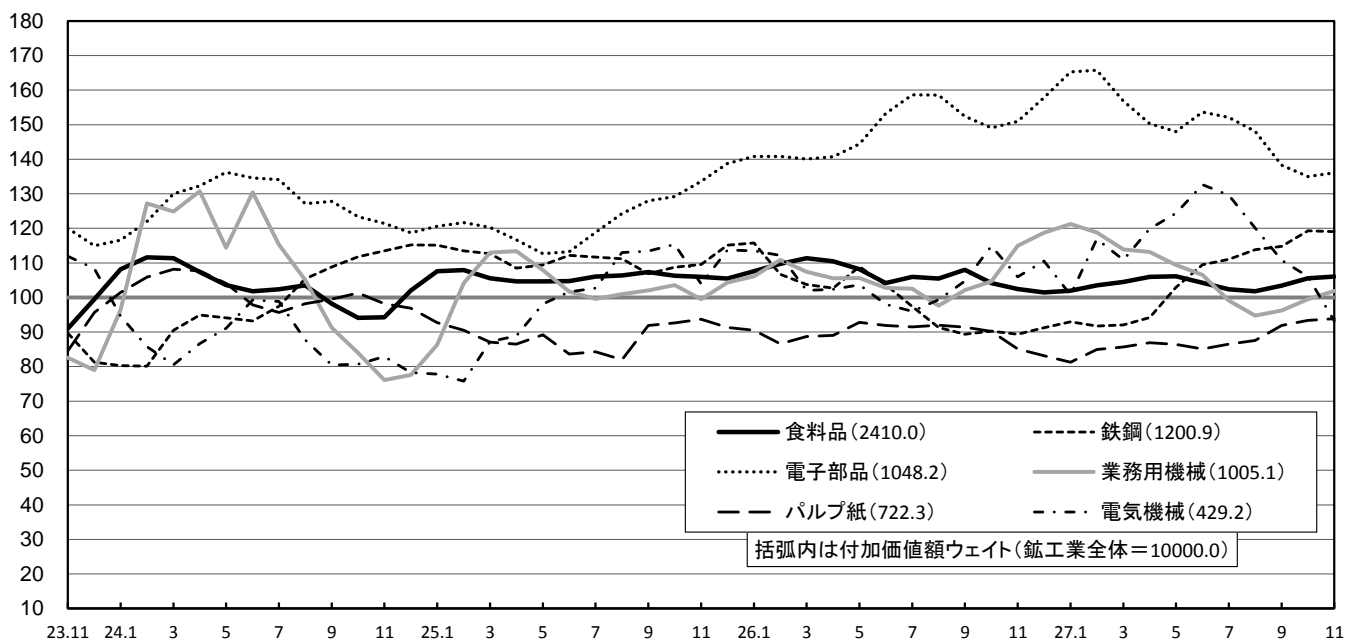


◎業種別動向(前月比) 鉱工業全体 -2.3%

プラス			マイナス		
業種	前月比(%)	寄与率(%)	業種	前月比(%)	寄与率(%)
金属製品工業	29.0	244.9	食料品工業	-5.4	-294.2
輸送機械工業	33.8	241.8	電気機械工業	-25.2	-232.7
非鉄金属工業	35.1	180.9	業務用機械工業	-8.1	-178.8
電子部品・デバイス工業	4.5	132.3	鉄鋼業	-4.2	-126.7
情報通信機械工業	60.4	67.8	生産用機械工業	-22.7	-41.5

主要業種の生産動向(季節調整済指数・3カ月移動平均値)

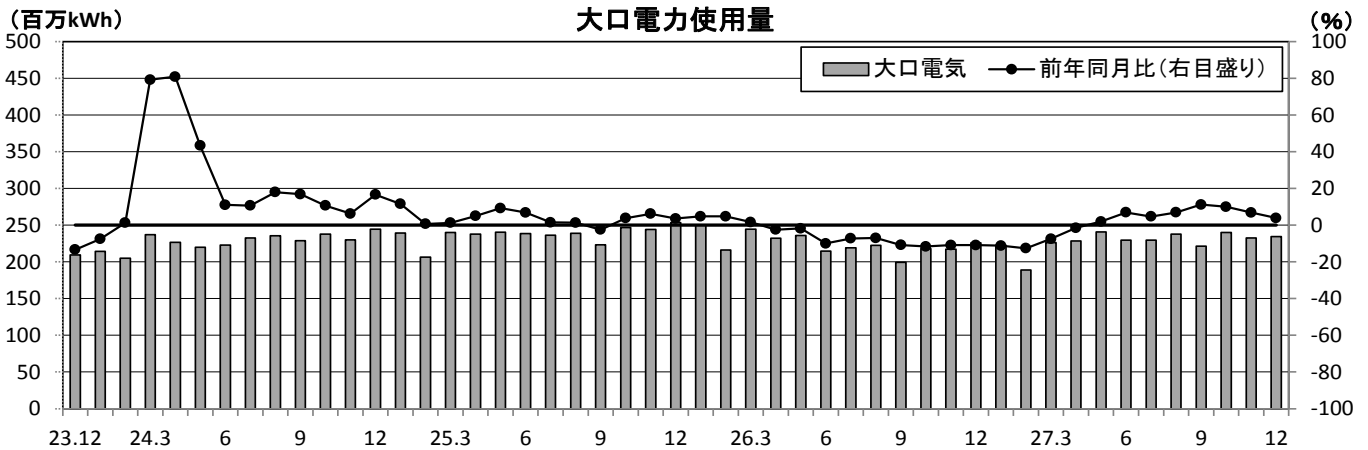
(平成22年=100)



資料：県統計分析課「青森県鉱工業生産指数(速報)」

## (2-1-2) 電力使用量

平成27年12月の大口電力使用量は2億3,455万kWhで、前年同月比3.9%増となり、8カ月連続で前年同月を上回った。製造業で増加したことによる。



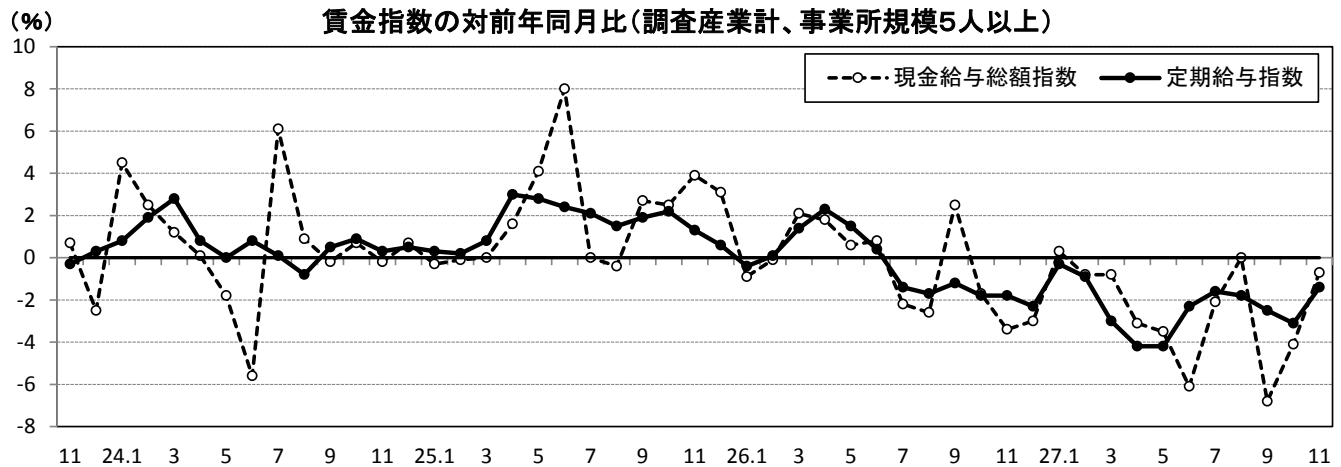
資料:東北電力(株)青森支店「電力需要実績」

## (2-2) 雇用労働

### (2-2-1) 給与・労働時間 (毎月勤労統計調査結果)

平成27年11月の定期給与は217,287円で定期給与指数(平成22年=100)では98.7となり、前年同月比1.4%減と17カ月連続の減(現金給与総額224,348円、現金給与総額指数87.0、前年同月比0.7%減)となった。実額で比較した定期給与の全国対比は83.7となった。

総実労働時間は156.0時間で、総実労働時間指数は100.9となり、前年同月比0.3%減と4カ月連続の減となった。このうち、所定外労働時間は12.2時間で、所定外労働時間指数は134.1となり、前年同月比19.4%増と12カ月連続の増となった。



資料:県統計分析課「毎月勤労統計調査結果(速報)」

### 賃金及び労働時間の動き(調査産業計、事業所規模5人以上)

	実数		指数(H22=100)		対前年同月増減率	
	県	全国	県	全国	県	全国
現金給与総額	224,348 円	274,414 円	87.0	86.6	-0.7 %	0.0 %
定期給与	217,287 円	259,463 円	98.7	98.7	-1.4 %	0.3 %
特別給与	7,061 円	14,951 円	—	—	—	-3.0 %
総実労働時間	156.0 時間	145.5 時間	100.9	99.2	-0.3 %	-0.1 %
所定内労働時間	143.8 時間	134.3 時間	98.8	98.5	-1.5 %	0.0 %
所定外労働時間	12.2 時間	11.2 時間	134.1	109.8	19.4 %	-0.9 %

(注)1.定期給与とは「きまって支給する給与」のことである。

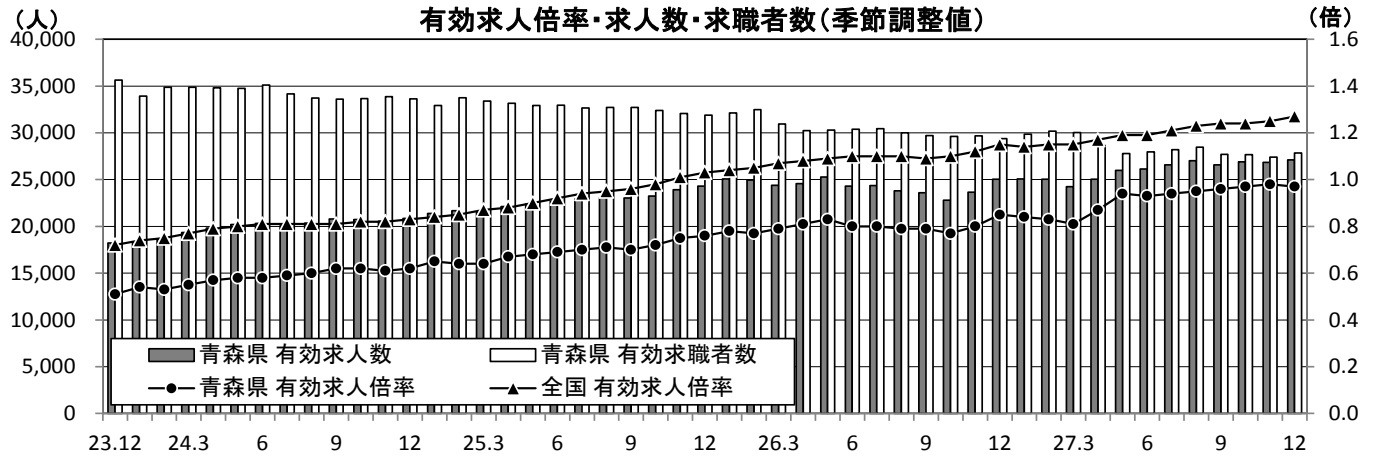
2.前年同月比は指数によって算出している。

3.平成22年1月分から、平成19年11月改訂の日本標準産業分類に基づいて結果の公表をしている。

資料:県統計分析課「毎月勤労統計調査結果(速報)」

### (2-2-2) 有効求人倍率

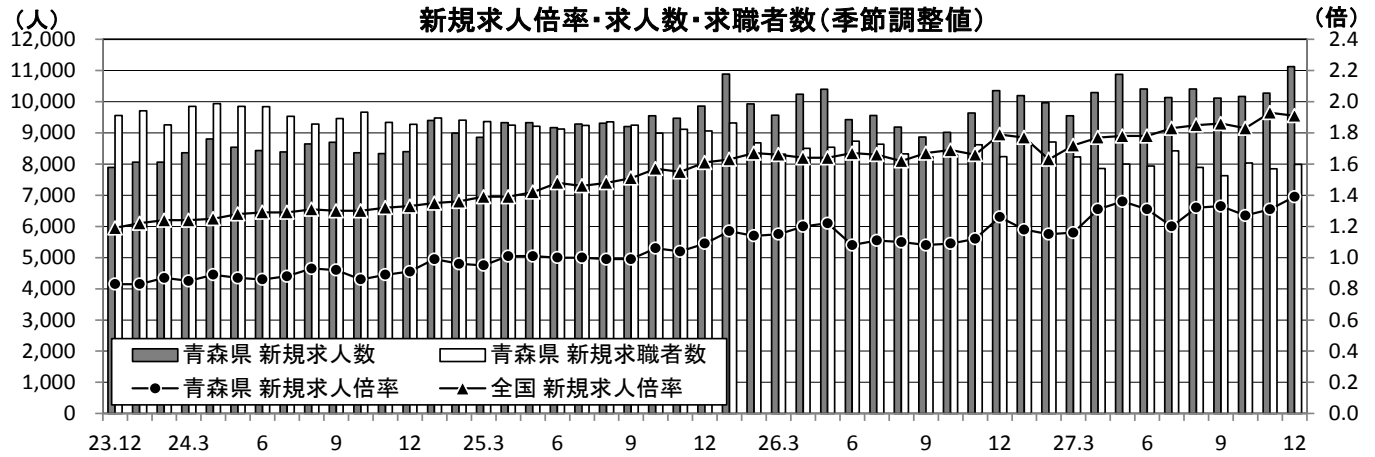
平成27年12月の有効求人倍率(季節調整値)は0.97倍で、前月を0.01ポイント下回り、調査開始の昭和38年以降、過去2番目の水準となった。



資料: 青森労働局職業安定部職業安定課「職業安定業務取扱月報」

### (2-2-3) 新規求人倍率

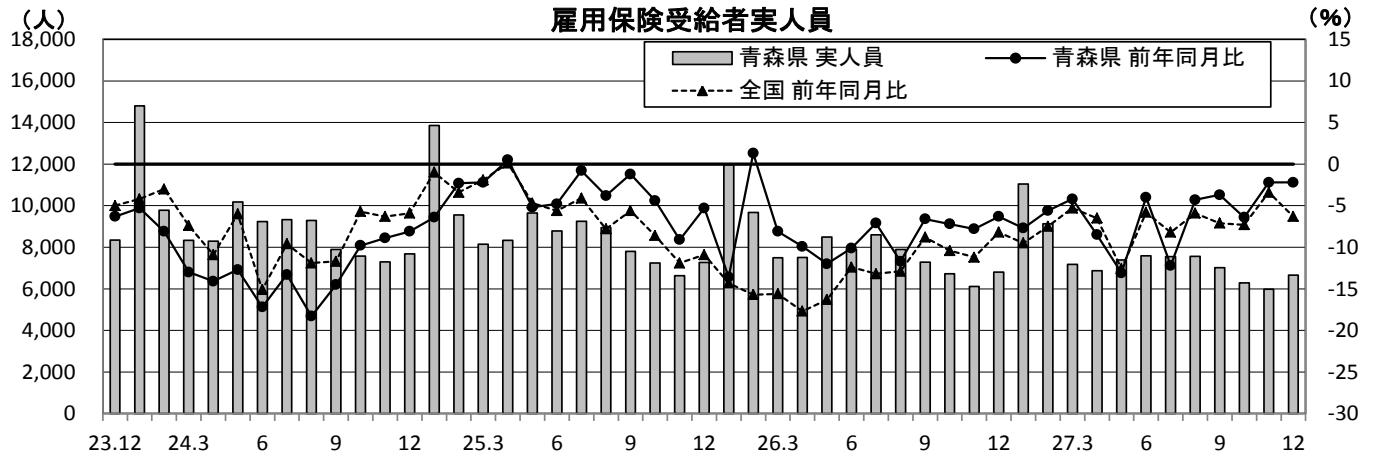
平成27年12月の新規求人倍率(季節調整値)は1.39倍で、前月を0.08ポイント上回り、過去最高を更新した。



資料: 青森労働局職業安定部職業安定課「職業安定業務取扱月報」

### (2-2-4) 雇用保険受給者数

平成27年12月の雇用保険受給者実人員は6,654人で、前年同月比2.2%減となり、22カ月連続で前年同月を下回った。



資料: 青森労働局職業安定部職業安定課「職業安定業務取扱月報」、厚生労働省「雇用保険事業月報」

## (2-3) 物価

平成27年12月の青森市消費者物価指数(平成22年=100)は、総合指数が102.9となり、前月と比べ0.2%の下落、前年同月と比べ0.3%の下落となった。

生鮮食品を除く総合指数は102.2となり、前月と比べ0.2%の下落、前年同月と比べ0.6%の下落となった。

食料(酒類を除く)及びエネルギーを除く総合指数は101.4となり、前月と比べ0.1%の下落、前年同月と比べ1.4%の上昇となった。

総合指数が前月と比べ0.2%の下落となった内訳を寄与度でみると、光熱・水道(他の光熱など)、被服及び履物(衣料など)などの下落が要因となっている。

総合指数が前年同月と比べ0.3%の下落となった内訳を寄与度でみると、光熱・水道(他の光熱など)、交通・通信(自動車等関係費など)などの下落が要因となっている。

図1 総合指数の動き

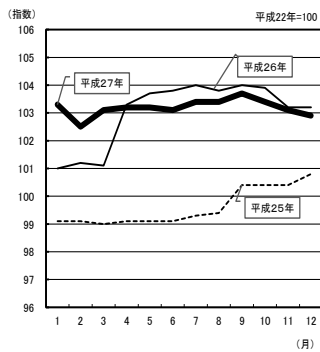


図2 生鮮食品を除く総合指数の動き

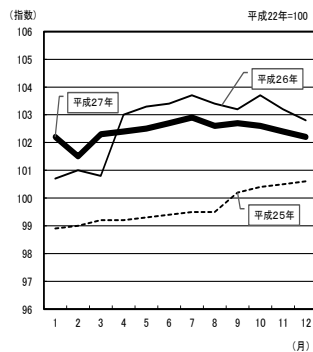
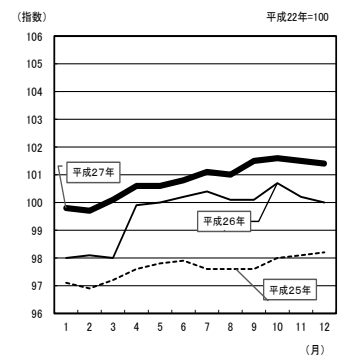


図3 食料(酒類を除く)及びエネルギーを除く総合指数の動き



### 10大費目指数の動き

(平成22年=100)

	総合	生鮮食品を除く総合	持家の 帰属家 賃を除く 総合	食料(酒類 を除く)及 びエネル ギーを除く 総合	食料	生鮮食品	住居	光熱・ 水道	家具・ 家用 用品	被服 及履 物	服 び物	保 医	健 療	交通・ 通信	教 育	教 娛	養 楽	諸 雑 費
当月指数	102.9	102.2	103.7	101.4	106.0	117.1	100.4	104.3	93.6	103.6	101.1	102.9	100.9	98.4	110.0			
前月比 (%)	▲0.2	▲0.2	▲0.2	▲0.1	0.4	0.4	0.1	▲1.5	▲0.6	▲3.0	0.3	▲0.4	0.0	0.2	0.4			
寄与度	—	▲0.18	▲0.18	▲0.05	0.10	0.02	0.02	▲0.15	▲0.02	▲0.11	0.01	▲0.06	0.00	0.02	0.03			
前年 同月比 (%)	▲0.3	▲0.6	▲0.4	1.4	2.3	5.5	1.2	▲12.9	4.7	▲1.0	2.4	▲1.9	0.9	3.0	1.4			
寄与度	—	▲0.54	▲0.32	0.89	0.61	0.26	0.23	▲1.46	0.14	▲0.04	0.10	▲0.25	0.02	0.28	0.09			

資料: 県統計分析課「消費者物価指数 月報」

※ **寄与度**とは、ある費目の指数の変動が、総合指数の変化率のうち何ポイント寄与したかを示したものであり、全費目の寄与度を合計すると、原則として、総合指数の前月比及び前年同月比(%)の値に一致する。

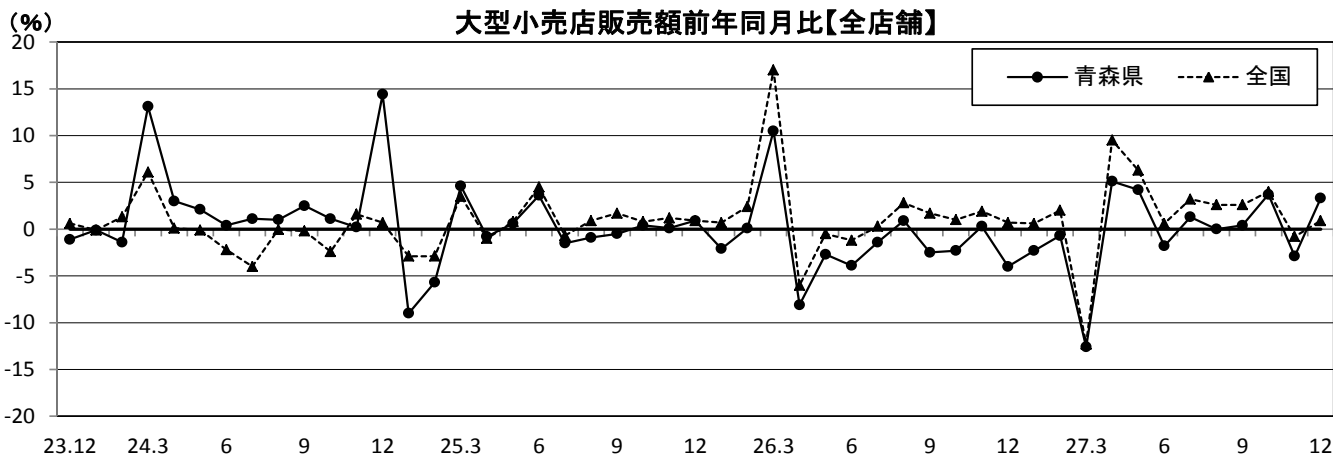
前月比、前年同月比及び寄与度は、端数処理前の指数値を用いて計算しているため、公表された指数値を用いて計算した値とは一致しない場合がある。

本資料は総務省統計局「小売物価統計調査」の調査票情報を独自集計したものである。

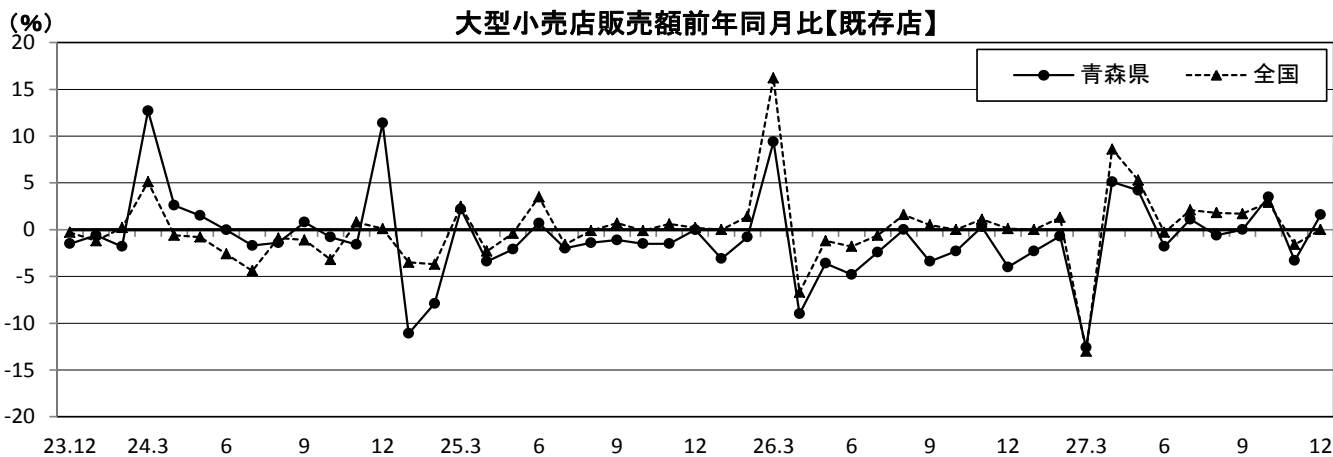
## (2-4) 個人消費

### (2-4-1) 大型小売店販売額

平成27年12月の大型小売店販売額は、全店舗ベースが180億円で前年同月比3.3%増となり、2カ月ぶりに前年同月を上回った。また、既存店ベースでは前年同月比1.6%増となり、2カ月ぶりに前年同月を上回った。スーパーが増加したことによる。



資料: 東北経済産業局「東北地域大型小売店販売額動向」、経済産業省「商業販売統計速報」

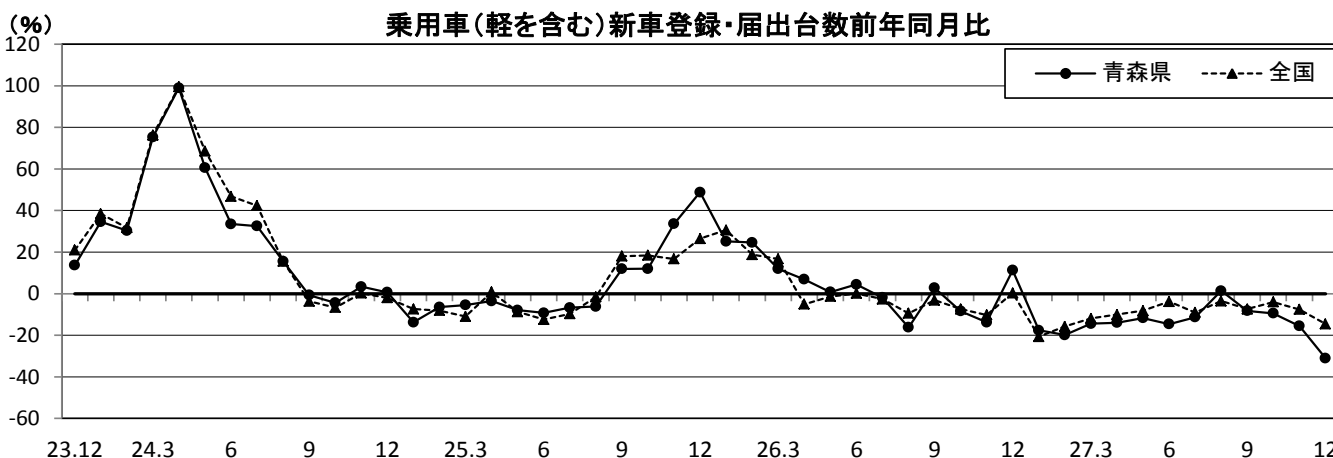


資料: 東北経済産業局「東北地域大型小売店販売額動向」、経済産業省「商業販売統計速報」

\* 大型小売店は従業員が50人以上で売場面積が1,500平方メートル以上の商店をいう。  
そのうち、既存店とは、当月及び前年同月とも調査の対象となっている商店をいう。

### (2-4-2) 乗用車新車登録・届出台数

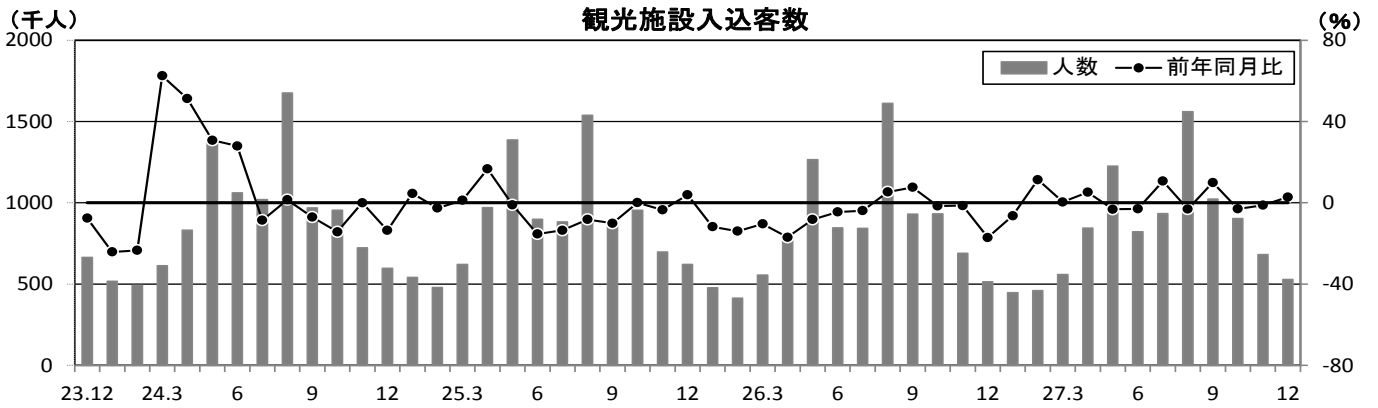
平成27年12月の軽自動車を含めた乗用車新車登録・届出台数は2,746台で、前年同月比31.0%減となり、4カ月連続で前年同月を下回った。軽乗用車が減少したことによる。



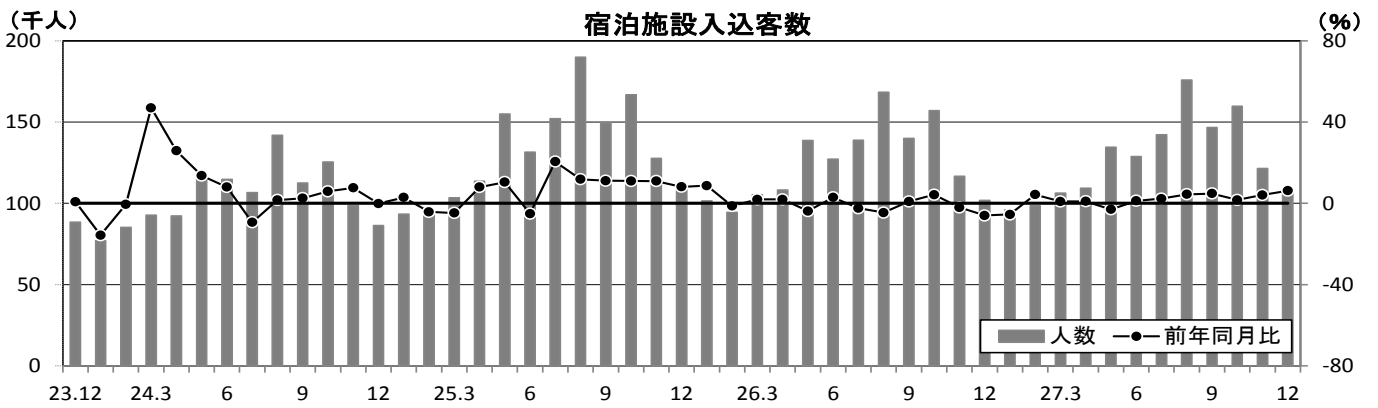
資料: 日本自動車販売協会連合会青森県支部「自動車登録状況 新車月報」、同連合会「自動車統計データ」

### (2-4-3) 観光入込客数

平成27年12月の観光入込客数は、主な観光施設が529千人で前年同月比2.8%増となり、3カ月ぶりに前年同月を上回った。また、主な宿泊施設は108千人で前年同月比6.2%増となり、7カ月連続で前年同月を上回った。観光施設は青森市、弘前市等の施設で増加し、宿泊施設は八戸市、むつ市の施設で増加したことによる。



資料：県観光企画課「月例観光統計」※観光施設34施設（H23年は34施設、H24年1月～H26年3月は35施設、H26年4月以降は34施設対比）

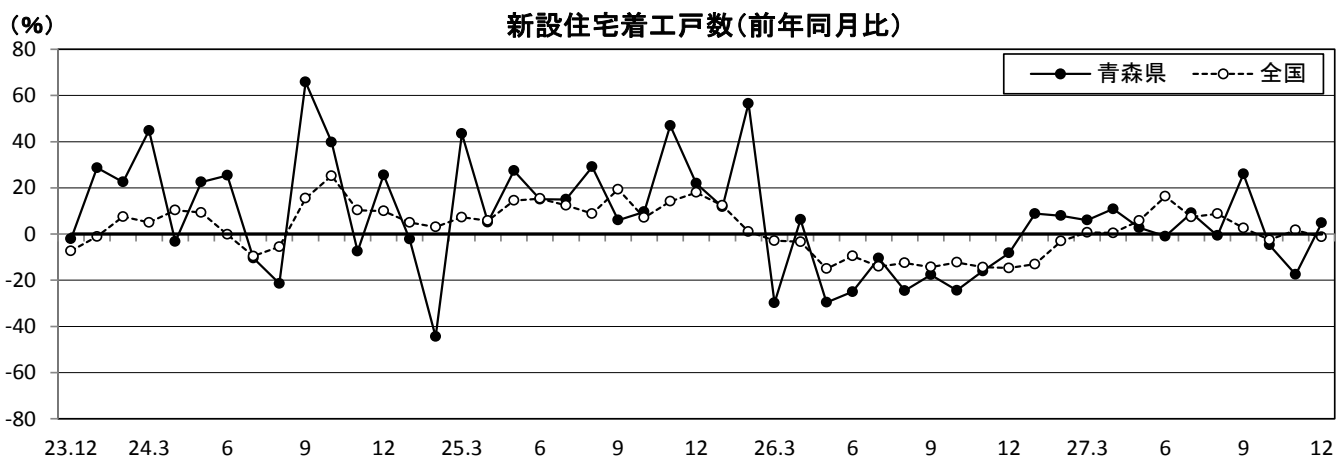


資料：県観光企画課「月例観光統計」※宿泊施設55施設（H23年は52施設、H24年1～3月は57施設、H24年4～9月は60施設、H24年10月～11月は61施設、H24年12月～H26年3月は57施設、H26年4～12月は56施設、H27年1月以降は55施設対比）

### (2-5) 建設

#### (2-5-1) 住宅建設

平成27年12月の新設住宅着工戸数は541戸で前年同月比4.8%増となり、3カ月ぶりに前年同月を上回った。貸家、分譲住宅が増加したことによる。

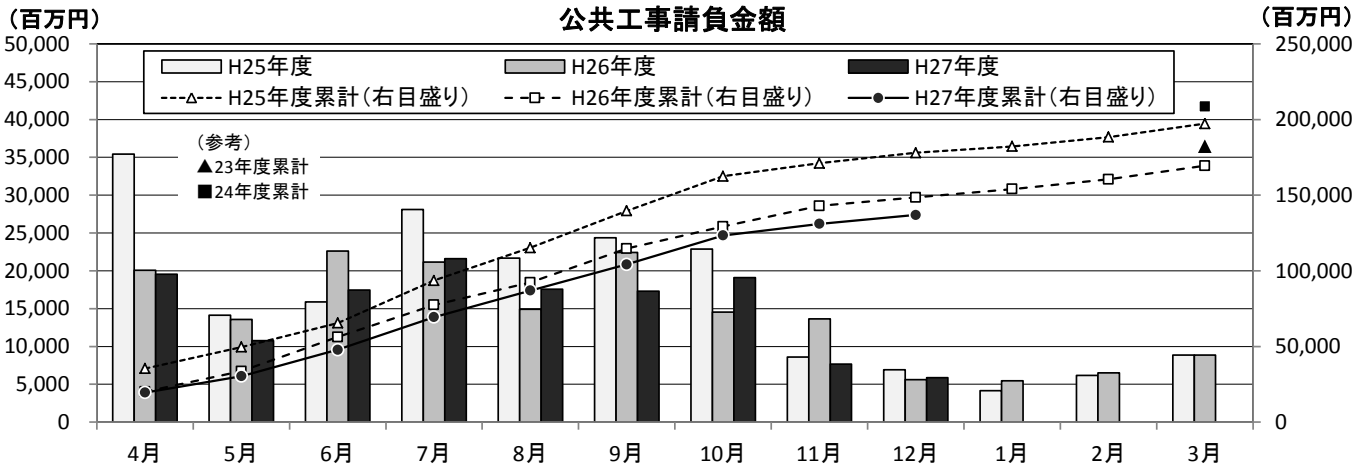


資料：県建築住宅課「建築着工統計」、国土交通省「建設統計月報」



## (2-5-2) 公共事業

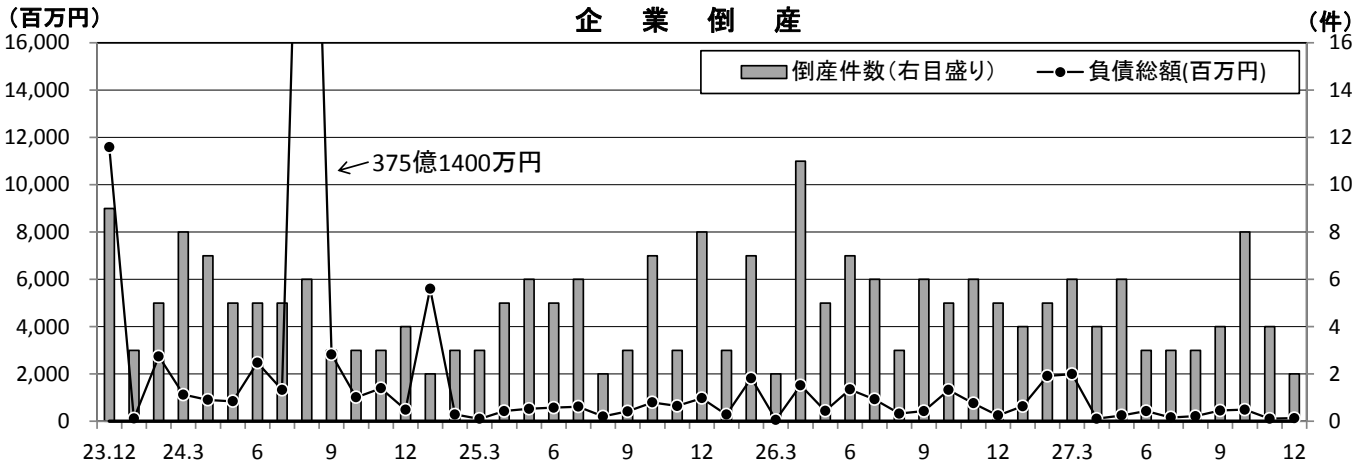
平成27年12月の公共工事請負金額は58億9,200万円で前年同月比5.2%増となり、2カ月ぶりに前年同月を上回った。国、県で増加したことによる。また、年度累計請負金額は、9カ月連続で前年同月を下回った。



資料: 東日本建設業保証(株)青森支店「青森県内の公共工事の動向」

## (2-6) 企業倒産

平成27年12月の企業倒産は、件数は2件で前年同月比60.0%減となった。負債総額は1億3,200万円で前年同月比46.1%減となった。負債総額の前年同月比は、小規模倒産のみの発生により減少した。



資料: (株)東京商工リサーチ「全国企業倒産状況」

### (3) 青森県景気動向指数

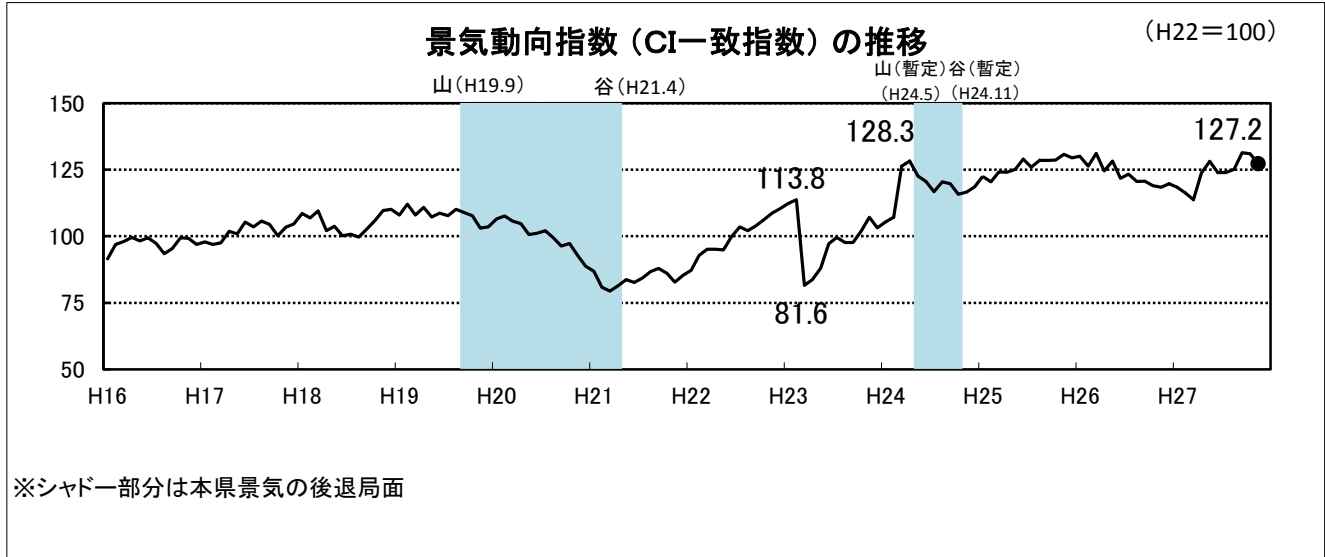
平成27年11月の青森県景気動向指数（C I）は、先行指数 108.2、一致指数 127.2、遅行指数 125.2 となった。

先行指数は、前月を 0.9 ポイント下回り、2 カ月連続で下降した。

一致指数は、前月を 3.8 ポイント下回り、2 カ月連続で下降した。

遅行指数は、前月を 0.3 ポイント下回り、4 カ月ぶりに下降した。

11月の一致指数は、消費・生産関連等の指標がマイナスになったことから下降した。



#### ●個別系列の動き（各指標は季節調整等を行い、寄与度を前月と比較しています）

寄与度がプラスの指標			寄与度がマイナスの指標		
<b>先行系列</b>					
新規求人倍率（全数）	1.74	3カ月ぶり	中小企業景況DI	-1.57	2カ月連続
企業倒産件数	1.41	3カ月ぶり	建築着工床面積	-1.49	2カ月ぶり
生産財生産指数	0.67	2カ月連続	乗用車新車登録届出台数	-1.46	3カ月連続
所定外労働時間指数（全産業）	0.41	2カ月ぶり	新設住宅着工床面積	-0.76	2カ月連続
<b>一致系列</b>					
輸入通関実績（八戸港）	0.46	7カ月連続	大型小売店販売額（既存店）	-2.59	3カ月ぶり
有効求人倍率（全数）	0.06	5カ月連続	鋳工業生産指数	-0.79	2カ月ぶり
旅行取扱高	0.01	4カ月連続	大口電力使用量	-0.76	2カ月連続
			東北自動車道 I C 利用台数	-0.25	2カ月連続
<b>遅行系列</b>					
現金給与総額（全産業）	2.10	3カ月ぶり	公共工事請負金額	-2.97	2カ月ぶり
青森市消費者物価指数（総合）	1.04	2カ月ぶり	りんご消費地市場価格	-1.32	3カ月ぶり
家計消費支出（勤労者世帯：実質）	0.44	2カ月連続			
常用雇用指数（全産業）	0.18	4カ月連続			
県内金融機関貸出残高	0.08	3カ月連続			

資料：県統計分析課「青森県景気動向指数月報」

(参考) 青森県景気動向指数（D I）		
先行指数	18.8%	（2カ月連続で50%を下回った）
一致指数	57.1%	（8カ月連続で50%を上回った）
遅行指数	71.4%	（2カ月連続で50%を上回った）

#### (4) 青森県景気ウォッチャー調査（平成28年1月期）

現状判断DIは、季節商品の販売不振や動きの少ない状況等から、前期比0.8ポイント減少の48.5となった。

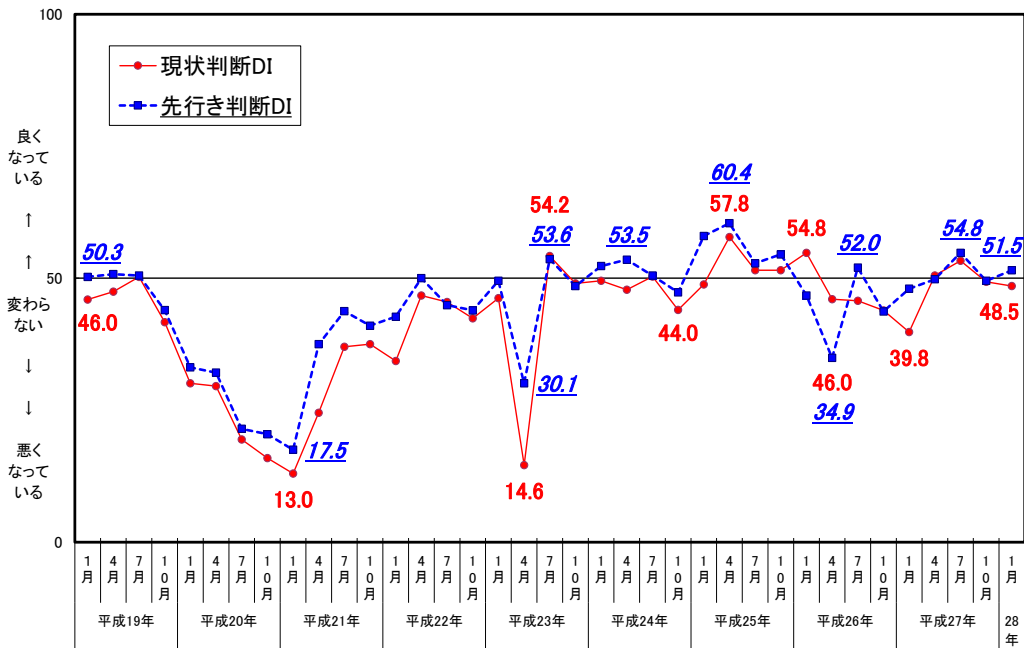
先行き判断DIは、動きの少ない状況等に懸念がみられるものの、北海道新幹線開業効果や消費税増税前の駆け込み需要の期待等から、前期比2.0ポイント増加の51.5となった。

3カ月前と比べた景気現状判断DIは、前期調査と比べて0.8ポイント減少の48.5となり、景気の横ばいを示す50を2期連続で下回った。

3カ月後の景気の先行き判断DIは、前期調査と比べて2.0ポイント増加の51.5となり、景気の横ばいを示す50を2期ぶりに上回った。

（調査期間 平成28年1月4日～1月14日 回答率100%）

景気現状判断DI・先行き判断DIの推移



#### ● 3カ月前と比べた景気現状判断

動	<p>前期調査と比べると、「良くなっている」が1.0ポイント減少、「やや良くなっている」が4.0ポイント増加、「変わらない」が6.0ポイント減少、「やや悪くなっている」が1.0ポイント増加、「悪くなっている」が2.0ポイント増加したことにより、全体では0.8ポイント減少の48.5となり、景気の横ばいを示す50を2期連続で下回った。</p> <p>判断理由では、購買金額が増えている、ガソリン・灯油が安く生活にゆとりがあるなどプラス面をあげる声があった一方で、例年並みで大きな変化はない、良くなっている実感はない、暖冬の影響で季節商品(衣料品・家電等)が売れないといったマイナス面をあげる声があった。</p>
向	<p>地区別では、前期調査と比べて、東青地区でポイントが増加し、津軽地区で横ばい、県南、下北地区で減少した。津軽地区では、3期連続で景気の横ばいを示す50を上回った。</p>

#### ● 3カ月後の景気の先行き判断

動	<p>前期調査と比べると、「良くなる」が1.0ポイント増加、「やや良くなる」が7.0ポイント増加、「変わらない」が10.0ポイント減少、「やや悪くなる」が3.0ポイント増加、「悪くなる」が1.0ポイント減少したことにより、全体では2.0ポイント増加の51.5となり、景気の横ばいを示す50を2期ぶりに上回った。</p> <p>判断理由では、景気が良くなる要素がない、不要不急の消費を控える傾向が続く、冬期の閑散期で大きな変動はないなど動きの少ない状況を懸念する声があった一方で、原油価格の下落が続き企業収益や家計への明るい兆しがみられる、北海道新幹線開業効果や消費税増税前の駆け込み需要に期待するという声があった。</p>
向	<p>地区別では、前期調査と比べて、東青、津軽地区でポイントが増加し、県南、下北地区で減少した。下北地区以外の全地区で景気の横ばいを示す50を上回った。</p>

資料：県統計分析課「青森県景気ウォッチャー調査報告書」

### ● 3カ月前と比べた景気の現状判断理由

- 消費増税の現実味がだんだん進行している感じで、動きはある。(住宅建設販売=東青)
- 3カ月前と比較し、1日当たりの平均売上、入場者数が増えている。(競輪場=東青)
- お客様お買い上げ金額が増え、高額商品の売れ方も良くなっている。(スーパー=県南)
- 一次産業のホタテ、米、リンゴ、野菜等の豊作。石油に関連した業界運送業等の採算が好転している。その他売価アップによる利益率向上が見られた。(経営コンサルタント=東青)
- ガソリン価格が安い。灯油が安い。暖冬のため、人々の生活にゆとりがある。(食料品製造=津軽)
- プレミアム商品券利用期間が終了し反動が出たのと、暖冬から秋物が苦戦、冬物防寒物も12月にずれ込みセール待ちと振るわなかった。景気観は悪くないと思うが盛り上がりには欠けるような気がする。(衣料専門店=東青)
- いろいろなお客様のお話を聞いていても、物も売れないし、外に出る人々が少なくなっていて、大きな変動はないと思われます。(タクシー=東青)
- 年末年始は例年並みの推移。3カ月前の比較としては、大きな変化は特になし。(百貨店=津軽)
- 個人消費の動向から、あまり変化が感じられないため。(ガソリンスタンド=県南)
- 前年に比べ、忘年会・新年会とも減少している。(都市型ホテル=下北)
- 受注件数、受注額等が特に増えている訳ではなく、良くなってきているとの実感はない。(広告・デザイン=津軽)
- △ 暖冬の影響で、衣服・身の回り品の売上が悪く、まだ尾をひいている。(商店街=東青)
- △ 来店頻度が下がっている。カラー・カットなど予定日数が長くなっている。(美容院=県南)
- △ 季節商品(衣料品・家電等)が売れていないから。(商店街=県南)
- △ 暖冬による冬物商品、冬季間ビジネスの低調。(広告・デザイン=東青)
- × 暖冬少雪が災いしている。(ガソリンスタンド=津軽)

### ● 3カ月後の景気の先行き判断理由

- ◎ 北海道新幹線開業を3月に控え、いろいろ街の感じも盛り上がり、人の動きも当然出てくるものと思います。(一般飲食店=東青)
- 原油価格の下落が続き、企業収益や家計への明るい兆しがみられるため。(家電量販店=東青)
- 消費増税のかけこみが始まるから。(住宅建設販売=県南)
- 北海道新幹線開業・六魂祭等に向かい、外食・サービス等が活性化、人員増による依頼が見込まれる。(人材派遣=東青)
- 現政権になって安定していることから景況感が悪くないと思うが、実質賃金が上がりず消費行動に向わない様な気がする。(衣料専門店=東青)
- 冬季の閑散期となり、大きな変動はないものと思料。(観光名所等=東青)
- お客様のお話で、3カ月後もあまり変動がないとの意見が多かったです。自分もこのままの景気が続くと思います。(タクシー=東青)
- 北海道新幹線開業、弘前城の観光等で、どの程度の盛り上がりが出るか不透明であるが、期待したい。(百貨店=津軽)
- 社会保障費の負担増や来年の消費増税を意識して不要不急の消費を控える傾向が続くと思われるため。(百貨店=県南)
- 婚礼、宴会等予約件数が伸びていない。(都市型ホテル=下北)
- 特段、景気が良くなる要素もなく、この冬期間は工事物件も少なく、年度末の3月も大きな期待が出来ない状況。(広告・デザイン=津軽)
- 今後3カ月は冬季であることを考えると、建設業や運送等の業種は収入が減少すると思われるため、全体的には変わらないか、やや悪くなると思われる。(経営コンサルタント=県南)
- △ 冬はどうしても、観光客が少なく、客足も遠のきますので、4月の花見ごろまで売上にも影響していくと思います。(一般飲食店=津軽)
- △ 正月が過ぎ、すぐに客数が減り、お買い上げ品を見ても、節約しているのが分かるようになってきた。(スーパー=県南)
- △ 消費税上げのプレッシャーは大きい。家計も企業も悪影響におびえている。そんな心理で景気がよくなるわけがない。世界的にもテロなど不安要素が高まった。(電気機械製造=県南)
- × 良いニュースが無いですから。新聞・TVの内容でお客様の様子が変わります。(一般小売店=下北)

記号の意味:◎良くなっている、○やや良くなっている、□変わらない、△やや悪くなっている、×悪くなっている

資料：県統計分析課「青森県景気ウォッチャー調査報告書」